



地元島根について 探究し、また地域へと 還元するカリキュラム。

取材／金井文彦 文 飯沼千穂

島根県立松江東高等学校校長 田中正樹
教諭 登城智宏

松江東高校は、島根県教育委員会から2017年度に「教育課程実践モデル事業」の指定を受けました。さらに2019年度には文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、新しいカリキュラム設計に乗り出し、3年間に亘る体系的な「総合的な探究の時間」を開発しました。それが「地域共創人育成 Project」です。この松江東高校の教育実践から地域を対象とするプロジェクト学習のヒントを探ります。

「地域共創人」を 育てるために。

金井 松江東高校ではどのような地域探究学習が行われているのですか？

田中 「総合的な探究の時間」にあたる「地域共創人育成 Project」では、松江市をフィールドワークとした学びや経験を活かして、地域社会の未来

に向けて挑戦し、他者との協働を通じて新たな価値を創造しながら自己実現を図ることを目標にしています。

金井 どうやって生徒の探究心に火をつけるのですか？ また教員の皆さんはどのようにファシリテーションをされていますか？

田中 2年生の1学期はまず地元企業の魅力を調べます。2学期からは本格的に企業の魅力を深掘りするとともに



地域探究を キャリアに活かす。

に課題を調べて、課題解決の提案まで作るようにしています。地元の企業や中小企業家同友会、松江市役所が協力して下さっています。大人が提供するものはあくまでも情報に留め、生徒たちが自ら課題を見つけ出すようファシリテートしています。生徒に委ねるので時間もかかります。教員にとってはこの待つ時間が辛くもありませんが、じつと我慢です。

登城 基本的に教師は生徒に口を出さない、手を貸さない。生徒から何かを問われたら、答えを出すのではなく、逆に問い返すようにしています。生徒が決めたスケジュールを見守りながら、サポートが必要な進捗の遅いグループがあれば、一人ではなく数名の先生でチームになって相談に乗っています。教員ミーティングには島根大学の先生にも入っていただき、事前打ち合せや事後の振り返りを頻繁に行い、他校でのそれぞれの教員の経験とも照らし合わせながら、アドバイスを合っています。

田中 企業の方もとても熱心に関わって下さっています。教員が十分にファシリテートできなくても、企業との連携の中で、生徒が自ら課題を発見できるスタイルができあがっています。私は今年度にごちからに着任したのですが、これまで学校教育に熱心な企業は初めてです。本校の学びのコンセプトを「地域共創人」の育成と明確にしたことで、企業の思いとマッチしたところが大きいと思います。企業側も、将来の島根県を担う若者を育てたい、起業家精神を高校生にもってほしい、そんな人材育成への思いをお持ちです。

金井 教員はどうしても正解へ誘導してしまいがちですが、生徒自身が本当に興味のあることを見つけて答えのない探究を始めると、目の色が変わってくるんですよね。

田中 そうなんです。そのためには教員の認識転換が大切ですね。探究活動による成果をプレゼンするビジネスプラン発表会では、事業者の方から「高校生ならではのアイデアをもらうことができた」「自分たちもそう考えていたが、やはりそうなのだ」と確信を持っていただき、高い評価を得ています。

登城 そこまで到達するために、2年生の2学期におよそ10時間をかけています。また、フィールドワークでは授業

時間を超えて調査を続けるグループもあります。

田中 今年度初めてこのプロジェクトを修了した生徒が卒業するのですが、探究による学びを大学へつなげたいと考える生徒には、島根大学の「へるん入試」などへの後押しもするつもりです。今年から3年次に「EAST地域探究」という学校設定科目も設けました。10名が選択し、さらに地域探究を深めようとしています。多くの生徒が、この探究を大学でも生かしたいと考えているようです。

金井 「EAST地域探究」を選択する生徒たちには何か共通する個性や姿勢が見られますか？

田中 やりたいことを持っていますね。なんとなく大学へ進学する生徒も多い中で、彼らには「こんな人生を送りたい」「これにチャレンジして自分をクリエイティブにしたい」という思いがあります。大学進学だけではなく、美容師などをめざす生徒もこの授業を選択しており、今後のキャリアにどう生きるか楽しみます。



1～2年生の地域探究パトントッチ会 (3月)

地元企業とともに。

登城 授業とは別に、松江商工会議所が「キラ星共創プロジェクト」を立ち上げました。商工会議所は「君たちの企画に5万円の資金を提供するから、起業するつもりでやってみろ」と生徒を燃

えさせています。採用予定は5組だったのですが、校内から10組の応募があり、高校生の奇想天外な発想を買って下さって全組採用となりました。この地域には、生徒を優しく見守る大人の温かさがあります。資金を使って本気で取り組む。この経験がまた生徒の将来を創るだろうと思います。あわせてこのプロジェクトでは、本校の卒業生が後輩に伴走します。地域連携の再生産、循環型をめざしていますが、将来どのように発展していくのか期待が膨らみます。

金井 未来の松江市を担う「地域共創人」を育成するために、生徒の心を動かす、地域づくりへの意欲を高めるさまざまな工夫をされているのです。今日はインタビューにに応じていただき、ありがとうございました。



島根県立松江東高校